

C—16 R.C アパート及び独立住宅における収納
について（その3）—洗濯・入浴・洗面
用具の標準所有とその収納—

大阪市大家政 ○前原 匡子
北浦かほる
上林 博雄

1. はじめに 本題（その1）¹⁾では調査についての概要と、洗濯・入浴・洗面用具の室別所有の実態をR.C アパートおよび独立住宅に分け、比較して示した。本小論では上述の所有の実態よりそれらの標準所有を追求し、収納方法をのべ住居の標準化に役立てたい。

2. 標準所有量の追求 調査の結果として所有量、使用量、適数、平均所有個数等を求め、それらの分析結果にわれわれの実生活から割出したファクターおよび生活の変化の指向性を加味して標準所有を決定した。なお、標準所有は品目、個数、寸法等について示す（表示）。洗濯用具の標準については洗濯が専用洗濯室あるいはユーティリティまたは脱衣兼用室で行われる場合も同一でよい（共用洗濯室の場合は省く）。一方浴室・脱衣室に置かれるべき用具については洋風の形式と和風の形式によって大きい差がある。ここでは和風形式のみについてのべる。なお、洗面所に用いられる用具は家族的個人差が多いので量的に標準を決めることがむづかしい。

3. 標準所有の収納について 前項で決定したそれらの標準所有にもとずいて収納例をつくる。なお収納に関しては市販用具の寸法にモジュール的検討を加えた（洗濯用具および入浴に関する用具について図示）。洗面用具の収納は市販のメディスンボックスが多用されている。

注記 1) 著者等：同題（その1——洗濯・入浴・洗面用具の所有の実態）学会関西支部研報 S42.5。 2) 著者等：同題（その2——掃除用具等の所有の実態），以下同上。